

溶連菌感染症

溶連菌感染症とは？

溶連菌とは「溶血性連鎖球菌」を略したいい方で、その中のA群溶連菌によっておこります。下記の発疹などを伴う典型的な例は「猩紅熱」と呼ばれますが、最近ほとんどみられず、急性上気道炎(咽頭炎・扁桃炎)のみの例がほとんどです。



症状

典型的な症状は、発熱、咽頭扁桃炎(のどの痛みが特徴です)、いちご舌(舌が赤くブツブツになります)、頸部リンパ節腫脹、発疹(毛穴に一致した小さな赤いブツブツや、全身のあちこちが真っ赤になります)および落屑(皮膚の皮がむける)、悪心、腹痛などですが、最近症状が軽いものがほとんどです。



そのため医師の診察を受けなければ分からない場合が多いのです。特に3歳～10歳の子供が罹ることが多いのですが、最近3歳以下の感染が増加しています。潜伏期は2～5日です。症状は抗生物質を投与すると急速に改善します。

診断

大体は症状や診察所見で診断できますが、確定診断は咽頭で溶連菌を確認することです。以前は菌の培養検査をしていましたが、現在は迅速診断キットを用いると約10分で診断ができます。



合併症

急性糸球体腎炎、リウマチ熱などの重症な病気を合併することがあります。その場合は、溶連菌感染症にかかった後1～4週間位で、血尿や体のむくみ、発熱、関節痛などが表われてきます。最近治療の進歩で、腎炎やリウマチ熱の発症率は1%以下と非常に少なくなっていますが、十分に経過観察をして下さい。

治療

合併症を予防するためにも、診断のつきしだいペニシリンなどの抗生物質を十分投与することが必要です(大体10日間位)。

看護

十分な抗生物質の投与は必要ですが、約1～2日で医師の許可ができれば外出、登園(登校)可能です。発症当初は家で静かに過ごして下さい。なお園・学校には「治癒証明書(登園・登校許可書)」の提出が必要です。